

## ニューカッスル大学語学研修参加報告書

国際環境工学部 2 年（参加時）

私は、2025 年の 2 月 11 日から 3 月 7 日までの約 4 週間、オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるニューカッスル大学の語学研修プログラムに参加した。この参加報告書では、私が留学を通して体験したことと学んだことについて、以下の 4 つの項目に分けて述べる。

### 1. 留学先での取り組み

はじめに、留学先での取り組みについて話す。ニューカッスル大学の授業では、スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングを 1 コマあたり 2 時間の授業を 2 コマで行うものであった。授業で扱った文法は、現在形・過去形・主語に応じた動詞の形の変化などの基礎的なものが中心であった。

スピーキングは、スライドに提示された質問や写真についてグループやペアで話し合うことを中心に行った。自分で英語の文章を考えて質疑応答する機会は今まであまりなかったため、初めは難しく感じた。この難しさについては、回数を重ねることで改善できたと思う。私がスピーキングで意識したことは、スライドの質問について相手が答えたことに対して、さらに質問をすることである。このようにすることで、会話をより長く行うことができる上に、場面に応じた質疑応答のフレーズに慣れやすくなると考えた。

リスニングは、高校の授業と同様に、与えられた音声を聞いて質問に答えたり、英語を聞いて言っている通りに書き出す作業をしたりした。私はリスニングに苦手意識を持っていたが、授業を受ける度に聞き取りやすくなっていることを実感できた。このことから、毎日英語を聞くことの大切さを学んだ。

リーディングでは、与えられた文章や資料から英文を作成したり、問題に答えたりすることが多かった。文章の内容や使われている単語は、比較的簡単なものが多かったため、苦戦を強いられることなく解くことができた。リーディングの内容においていろいろな国の文化や暮らし、気候などが紹介されていたため、読んでいて面白かった。

ライティングでは、グループごとに分かれてスライドの問題に答えたり、プリントを解いたりした。文法や単語に関しては、中学と高校で勉強をしたことを覚えていたため、スムーズに行うことができた。また、1 週間に 1 回英作文を書く機会があった。英作文を書いた後に先生が添削をしてくれるため、自分のミスを復習することに役立った。

私がニューカッスル大学の授業の中で最も難しいと感じたことは、英語を話すことができる先生や同じクラスのアラビア人が話している内容を理解することである。英語をスム

ズに話すことができる人は、話すスピードや使う単語、フレーズなどが様々であり聞き取れないことがほとんどであった。この点を改善するために私が取り組んだことは、分からなかったら聞き直す、分からなかった単語や発音があればメモして調べるということを徹底することである。また、クラスの休み時間などにアラビア人が近くにいたときには、会話をするようにした。

## 2. 授業外での経験

大学の授業外でも他国の人との交流を行った。今回の留学では、昼休みが2時間あったため、天気の良い日は、他のクラスやアラビア人の友人たちとサッカーやバスケットボールをして交流をした。最終日には、多くの外国人の方々と写真を撮った。オーストラリアで1か月間生活をして、オーストラリアに住んでいる人たちはとてもフレンドリーであると感じた。大学の無い休日では、友人やホストファミリーと過ごすことが中心であった。友人とは、ビーチやショッピングモール、シドニーなどに行った。外出をした際、レストランに行ったときや道を尋ねたときだけでなく、道端で話しかけられることもあったため、英語を話す機会も大学内に比べて増えた。大学の授業での英語と大学外で聞く英語では、話すスピードが大きく異なったため、大学に比べてより聞き取ることが難しく感じた。分からないときは英語が得意な友人が助けてくれたため、話していることや会話のやり取りを見て、どのようなときにどのような言葉を使うべきなのかを学んだ。外出を通して他に気づいたことは、店員の方とのコミュニケーションの取り方やバス内の雰囲気などが日本とは違う部分があるなど感じたことである。日本では、必要最低限のやり取りで済むのが基本だが、オーストラリアでは購入時などに日常的な会話をする機会が多く見られた。このような文化の違いを外出時では見ることができたため、とても有意義であった。ホストファミリーとは、湖や映画館に行った。また、毎日の食事の時間を利用して、お互いの文化について話した。私が滞在したホストファミリーは、ホストマザーが中国出身の方であったため、中華系の料理を食べることが多かった。ホストファミリーは、私が上手く英語を話すことができなかったり、聞き取ることができなかったりしたときに助けてくれたため、とても居心地が良かった。

## 3. 留学生活を通して得た学び

私が留学生活を通して得た学びは4つある。1つ目は、試験のための英語と話すための英語では、大きな違いがあるということである。英語の試験やTOEICを受験する際には、複雑な文法や難しい単語を使う必要があるのに対して、英語を話す際には自分が持つ知識で言い換えることで代用できることを学んだ。2つ目は、発音の重要性である。大学の授業中に、単語の意味は理解していたはずなのにその単語が聞き取れなかったという状況が頻繁にあった。そのことを友人に相談したところ、自分が発音できる英語は聞き取ることができると言われた。また、英語を発音する際に音が省略されたり、消失したりすることも聞き取れない原因であることも学んだ。それらを踏まえて学習していたところ、思っていた発音とは異なる発音の単語が複数見つかった。これから新しく学ぶ単語については、発音を重視して学びたい。3つ目は、挑戦することの大切さである。留学が始まった頃は、自分の英語が正しいのかが不安で話すことをためらうことが多かった。そのことをホストマザーに話したところ、間違ってもいいからたくさん英語を話すことが重要であることを学んだ。それをきっかけに、英語をたくさん使うようになった。1カ月ではスムーズに話すことができるようになることはできなかったが、留学前に比べると確実に成長したと思う。4つ目は、語学勉強の楽しさを学べたことである。今まではテストや試験のために英語を勉強してきたため、苦手意識が非常に強かった。しかし、今回の留学を通して、英語を正確に聞き取り話すために必要なスキルを常に考えながら勉強したり、授業を受けたりすることは楽しいということを実感した。留学後も英語の勉強を継続して仕事として使うことができるレベルにしたい。また、英語の勉強が終わった後には、趣味として他の言語の習得にも挑戦したい。

#### 4. 最後に

最後に感想と今回の留学経験をどのように活かすかについて述べる。今回、私は初めての海外であり、ホームステイ先も1人で過ごすことになっていたため、とても不安に感じていた。それらの不安は、友人やホストファミリーのおかげで取り除くことができ、オーストラリアが大好きになった状態で留学を終えることができた。特に、ニューカッスルは、自然豊かで親切な人も多かったため、快適な環境であった。1カ月という期間では、英語を用いてスムーズなコミュニケーションを取ることができるレベルには達することはできなかった。しかし、リスニング力や語彙力、英語を話すために必要なスキルを学ぶことはできたと思う。この留学で経験したことを無駄にしないためにも、英語の勉強の継続は必要であると同時に話すことができるレベルまでに持っていきたいと考えている。日本に戻ってからの英語の勉強では、ニューカッスル大学の留学とは異なり、英語に触れる機会も大幅に減ってくるため、モチベーションの管理が大切であると考えます。今のところは、クラスメイトだったアラビア人と連絡をとったり、YouTubeなどを活用したりして、話すための英語を勉強しようと考えている。また、英語の知識だけでなく、海外での暮らし方や困ったときの対処方法については、これから海外に行くことがあれば今回学んだ経験は間違いなく生きてくると考える。こ

の留学は1 カ月という短い期間であったが、学んだことや経験したことを含めると、1 カ月以上の価値があると断言できる。今後も英語の勉強を続け、英語を使った仕事に就けるように努力すると共に、チャレンジ精神を大切にして頑張りたい。

